

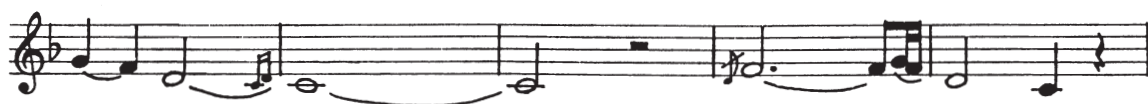
第七番 一心寺の御詠歌（専修調）

♩ = 40

松 濤 基 作曲



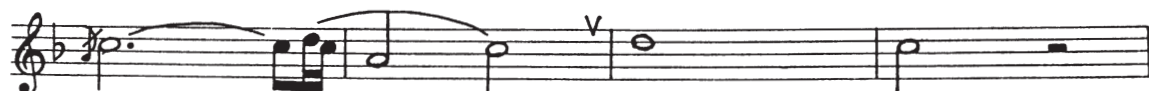
○ × ○ × ○ × ○ × ○ ×
〔斉唱〕 あみだぶ と ー いうより ー ほかは つ の



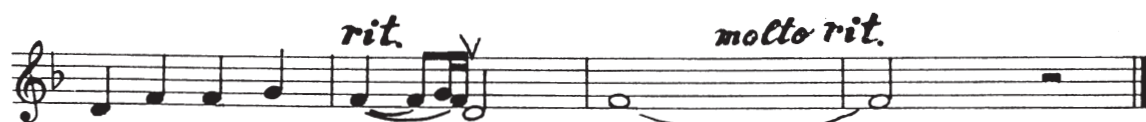
○ × ○ × × ○ × ○ ×
く ー に の ー なア ーア アン ア



○ × ○ × ○ × ○ ×
に イ ーイ ー わ の



○ × ○ × ○ × ○ ×
こオ ーオー オ ー と も



○ ○ ○ × ○ ○ ○ ×
あ し か り ぬ ー ー ベ し ー

第七番 摂津の国 逢坂 一心寺

「極楽往生の行業には余の行をさしをきて

たゞ本願の念仏をつとむべしといふことを」

阿弥陀仏と いふよりほかは 津のくにの なにはのことも あしかりぬべし
(法然上人御作)

法然上人は四天王寺の西門の近くに四間四面の草庵を結び、「^{あらはか}荒陵^{しんべつしよ}の新別所」と名づけ、はるか難波の海を見下し、美しく輝く太陽が西に沈むのをご覧になり、西方極楽浄土に思いをよせ日想観^{にっそうかん}を修し、至心にお念仏をされたのであります。後白河法皇もここを訪れ、上人と共に日想観を修せられました。この草庵が、現在の一心寺の開創となったのであります。摂津の国難波の浦は葦の名所と言われています。「なには」とは「何事」という意味にかけ、「あし」を「葦」と「悪し」とにかけ、巧みな表現でつづられています。

題意 極楽浄土へ往生するための行は、ただ阿弥陀さまが本願として誓われたお念仏の行だけで、その他の行は何もありません。^{せんじゆねんぶつ}専修念仏一行のお歌です。

大意 西方浄土へ思いを寄せる者は、ひたすらにお念仏の行だけに励みなさい。お念仏の行以外の行は、葦を刈るという言葉のように、往生のためには悪しき勤めとしてさしおきなさい。

ポイント注意

2拍子の曲です。

- 「あみ」が強声、「だぶ」が弱声です。
- 「いうより」の「り」のタイを大切に。
- 「こォーとも」の「こォ」の立ち上がりを大切に